

日時：平成24年4月18日（水）13：30～16：00

場所：石狩市役所 4階401・402会議室

【 当 日 の 内 容 】

13：30

◆ 開会

13：30～13：35

◆ 主催者挨拶（石狩市 総務部／佐々木 隆哉部長）

13：35～13：40

◆ 地区別ワークショップの目的についての説明（事務局／株ドーコン）
・ 自助、共助を基本とした地域防災力の向上！

13：40～13：50

◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
・ グループ別意見交換の進め方
・ 情報提供資料

13：50～15：30

◆ グループ別意見交換
・ 想定される災害種別と被害の内容
・ 地区特有の防災上の課題

15：30～16：00

◆ グループ別意見の発表
・ 各グループ代表者から発表

16：00

◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

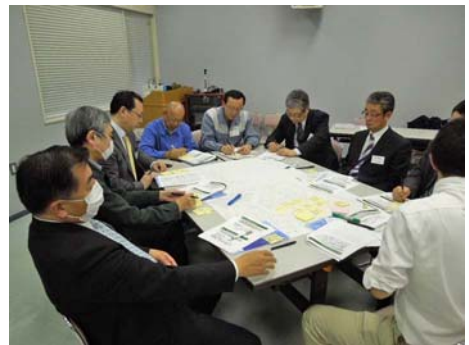
Aグループ（5名）

- ・人命を守ることが第一である。
- ・当地区で働く人が避難する場所を確保する必要がある。
- ・積雪期特有の移動の負担を踏まえた避難経路及び避難場所の確保が課題である。
- ・東日本大震災の前までは津波への関心はあまりなかった。東日本大震災以降は、オイルタンクの上に逃げることとしている。（津波時避難タンクとしての位置づけ）
- ・今後は、各企業の避難対策を参考にすることができるよう、情報共有が必要である。



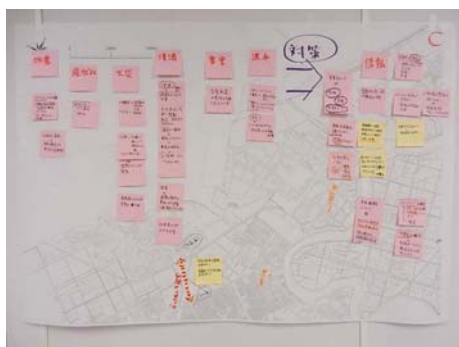
Bグループ（8名）

- ・新港地区で最も懸念される災害は、津波である。
- ・そのほか、強風、雪による視程障害、地震や液状化による道路の寸断などが懸念される。
- ・小樽市側に立地する企業もあるため、石狩市と小樽市からの情報が食い違っていると混乱を招く。
- ・企業間の情報共有が必要である。
- ・避難場所と経路を確立することが課題である。
- ・帰宅困難者が出た場合に対応できるよう準備しておく必要がある。行政と企業との役割分担を明確にしておく必要がある。
- ・各企業において、避難に係るマニュアルの確立が必要である。



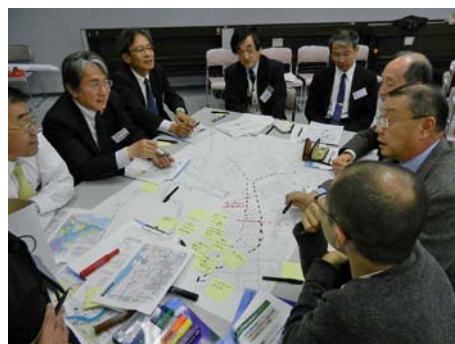
Cグループ（6名）

- ・新港地区では、地震、津波、雪害、液状化などへの対策が必要である。
- ・防災無線など情報伝達手段がきちんと整備されていない。情報がないと避難ができない。
- ・災害情報をもとに避難経路を決めていく必要がある。
- ・企業間の連携が必要である。
- ・流通通から花川通に抜ける道路など、石狩から札幌方面に逃げる道路の整備が必要である。
- ・津波から逃げられるような高い場所がない。高さのある建物を有する企業の中には、地域住民も含めて避難場所として活用しても良いというところもある。
- ・企業間で役割分担することが必要である。



Dグループ（8名）

- ・どのくらいの災害規模を想定して検討すれば良いのか。石狩では、震度5以上の地震はほぼ経験がない。3ケースほどの災害規模を想定して検討してはどうか。
- ・災害時の企業活動の維持については、各企業で検討していけば良い。重要なことは、どのように避難するかである。
- ・札幌方向への広い道路がない。新港地区から札幌方面に抜ける道路が必要である。
- ・橋の耐震性に問題はないのか。
- ・エリア分けして、エリアごとに避難の仕方を考えることが必要である。
- ・企業間での緊急ネットワークづくりが必要である。
- ・災害時に、石狩市からはどのような方法で、どのような情報が入るのがわからない。
- ・新港地区を災害から守ることができれば、災害時の物資の供給などができる。



Eグループ（6名）

- ・新港地区には、避難ルートとなる道路が少ない。
- ・地震規模の想定によって、避難などの考え方は異なる。
- ・携帯電話のアプリで緊急地震速報を行うものがある。
- ・災害時の情報は、石狩市から各社へ一斉にメール配信してはどうか。
- ・大雪が降った際に災害が起きた場合の対応も検討する必要がある。
- ・各団地で避難ルートを取り決めてはどうか。
- ・新港地区内の就労者は、ほぼ100%が車で通勤している。
- ・新港地区内の就労者は通勤ルート以外の道をよく知らないで、避難時は混乱するはず。
- ・地震発生時は液状化の懸念があり、車での避難は不可かもしれない。

